

ナルナル的 菌活書評

【ゴールデンウィークに読みたい本】

微生物と呼ばれる生物は、目に見えないほど小さいく微(かす)かに生きている姿から、「微生物」と呼ばれることになりました。英語では現在microbe(マイクロブ)と呼びます。

今から 300 年前、オランダの商人レーウェンフック(1632年-1723年)は小さな生き物を観察することが大好きで自作の顕微鏡によって歴史上はじめて微生物を観察した、「微生物学の父」と呼ばれています。

彼は自分の顕微鏡で見た小さな生物を little animals (小動物) と記載しています。

その後、多くの微生物(細菌も含む)が発見され、地球上の深海や地中、大気中などあらゆる場所で微生物が発見されます。宇宙空間に漂う微生物を見つけようという NASA のプロジェクトもあります。

人間の体内に生息する微生物の数は 1000 兆個ともいわれています。そして現在、DNA(遺伝子)を検査することで、地球上の微生物の 99.9%は未発見である事が判明しました。宇宙の謎が未解明なようにミクロの世界も又未知の世界であることがわかったのです。

『きのこの教科書 観察と種同定の入門』

今回ご紹介する本は身近なキノコについてのお話ですが、私たちの知っているキノコと言えば、松茸やシイタケ、エノキやシメジといったもので、スーパーで売られているものがキノコの姿だと思っている人が殆どでしょう。

キノコは普通、植物だと思われています。それは根っこ(菌糸)を張って子実体(この本の写真にあるような実になって食用になる部分)に



出来た胞子を花粉の様に風や虫によって拡散させるからです。

ところが、菌糸のままの姿で土の中や枯れ木に張り付いて一生を過ごすキノコが殆どらしいという事がわかってきました。

実はキノコは菌類

だったのです。本書はキノコの生態について解り易く解説しているので、初心者向けの良書であると思います。

名前の付いているキノコは世界で約 2 万種、日本では約 3 千種とされていますが、実は地球上に存在するキノコは百万種以上ではないかともいわれています。ミステリアスなキノコワールドによろこそ。野山のハイキングの途中菌糸を沢山見つけてくださいね。

	低い ⇄ 高い				
難易度	★	☆	☆	☆	☆
活菌度	★	★	★	☆	☆
面白さ	★	★	★	☆	☆
新規性	★	★	★	★	☆

書名	きのこの教科書 観察と種同定の入門
著者	佐久間 大輔
出版社	山と溪谷社
発行日	2019/9/17
価格	本体 2,200 円+税